

国際漁業学会（JIFRS）短信

<https://www.jifrs.info/>

事務局 E-mail: jifrs.kaiyodai@gmail.com

郵便振替番号：00100-6-26448 国際漁業学会

振込：ゆうちょ銀行 店番 019 当座 店名〇一九店 口座番号 0026448

2023 年度第 1 号

2023 年 8 月 7 日刊

目次

| | |
|-------------------------------|---------|
| 1. 理事あいさつ「ご挨拶と JIFRS への感謝」 | 山田二久次 |
| 2. 2023 年度 JIFRS 大会（静岡大会）のご案内 | 婁小波・事務局 |
| 3. 2023 年度 JIFRS 大会シンポジウムのテーマ | 婁小波 |
| 4. 2024 年度 JIFRS 大会シンポジウム企画募集 | 松井隆宏 |
| 5. 研究会のご案内（研究企画委員会主催） | 宮田勉 |
| 6. 学会賞（国内賞）候補者の推薦依頼 | 川辺みどり |
| 7. 事務局日より | 事務局 |

1. 理事あいさつ「ご挨拶と JIFRS への感謝」

山田二久次（国際漁業学会理事・三重大学大学院生物資源学研究所）

2022 年の夏から新たに国際漁業学会（JIFRS）の理事を拝命しました三重大学大学院生物資源学研究所の山田二久次でございます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私は三重大学の出身で、学部、大学院とも水産のことを学び、専門は海の流れ等を研究する海洋物理学です。出来のあまり良くない大学院生であったため、専門分野での研究機関に採用されず、金融不安が起こった社会背景の影響もあり、民間企業での就職もかありませんでした。最終的には、出身大学、学部でお世話になることになり、地域環境管理学という環境政策を研究する部屋の助手（現在の助教）として 2000 年に採用していただきました。元々の専門と違う分野での就職となりましたことから研究活動を順調に行うことができず、元の専門分野との交流も希薄になり、どちらの分野で研究を行うにも中途半端な状態が続いておりました。

そのような状態の時に本学会にご縁をいただきました。入会、活動するきっかけとなったのは、現在、東京海洋大学に所属されている松井隆宏先生が三重大学大学院生物資源学研究所に赴任されたことです。松井先生が同研究所にご着任された際の研究室は、資源経済システム学という水産経済の研究室で、私が所属している研究室の隣の研究室でした。松井先生から「計量的なアプローチと一緒に研究をしませんか？」という内容でお声がけいただいたことを今でも覚えております。実は、私が環境政策の研究室に所属した当初、アンケートデータに対する統計解析に興味を持っておりました。海洋物理の研究をしていた際に、相関分析、回帰分析、主成分分析等の統

計手法を用いた経験があり、なんとなく馴染みやすく感じたからです。しかし、研究室の当時の教授から「そんな簡単にできるもんじゃない」と言われ、断念してしまったという経験もございました。様々なことがございましたが、松井先生のお力をお借りしながら、水産経済に関連する研究を行ってまいりました。研究成果の一部は国際漁業研究にも掲載されております。

私が本学会に所属しております理由は、研究の評価、論文の掲載、貴重なご意見を頂戴すること等、研究でのサポート面に加え、本学会が持つ融和的な雰囲気がございます。むしろこちらの方が大きいと思います。本学会は学会名にもございますように国際的な漁業に関する研究を主な専門とする先生方がいらっしゃるだけでなく、国内の水産物に関する経済、経営等の様々な研究を行う先生方も会員に含まれております。また、定性的な分析が得意な方や計量分析、経済理論など、様々なアプローチで研究に取り組まれています。さらに、水産資源管理をご専門とする先生や私のように海洋を専門とするものまでおります。浅学な私ゆえに、時に変なこと、ピントのずれたことを発言していると思いますが、それにも関わらず多くの方が門外漢の意見にも耳を傾けて下さります。

前述のように、当学会には自由で寛容な雰囲気が感じられ、非常に居心地のいい場所だと感じております。例えば、以下のようなこともございました。私の研究に機械学習の手法を用いて行った研究があり、国際漁業研究に掲載していただきました。該当論文ではございませんが、類似の手法で分析した研究を他学会の学会誌に投稿したことがございます。その際、「査読できない」、「査読できるレビュアーがない」という理由で、残念ながら掲載拒否となってしまったことがございました。本学会では拙論に対しても真摯にご対応いただいております。上記の経験後、あらためて感謝の気持ちが強くなりました。

このように、国際漁業学会を通じて多くのご恩を受けており、少しでも報いるべく、学会活動に貢献したいと感じております。運営に不慣れな点がございますこと、所属大学が組織改編の時期になり多忙にしておりますこと、など幾つかの理由があり、満足な活動ができていないのが現状でございます。承りました責務を果たせますよう、今後はより一層精進して参りたいと思いますので、ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

2. 2023 年度 JIFRS 大会（静岡大会）のご案内

婁小波（国際漁業学会会長・東京海洋大学）・事務局

2023 年度大会は下記の通り東海大学静岡キャンパスにて行うことになりました。今のところ、対面での実施を予定しております。多くの会員、関係者の皆様からのご参加をお待ちしております。

会 場：東海大学 静岡キャンパス

〒424-8610 静岡県静岡市清水区折戸 3-2 0-1

日 時：2023 年（令和 5 年）8 月 26 日（土）～27 日（日）

日 程：8 月 26 日 午前：各種委員会・理事会

午後 シンポジウム（漁村地域振興と海業に関するテーマを予定）

夜 懇親会

8月27日 午前：個別報告（申し込み数が多ければ午後も）

午後 総会等

参加費：一般会員 1,000 円、一般非会員 2,000 円

ただし、地元漁業関係者や学生は無料

◆報告予定者に向けた連絡事項

・個別報告について

個別報告は1報告あたり25分（質疑含む）の予定です。個別報告を希望する会員は、報告者の氏名、所属、および報告タイトルを、7月14日までに国際漁業学会事務局（jifrs.kaiyodai@gmail.com）までご連絡ください（締め切り済み）。また、7月28日までに報告要旨（40字×25行以内）を、8月18日までにパワーポイント等による報告資料（当日までに改変可、事前に座長に渡します）を、それぞれメールで事務局まで提出してください。

・報告論文について

シンポジウム報告および個別報告の報告者におかれましては、大会終了後に報告内容をベースとする10枚程度までのコンパクトな和文論文を「報告論文」として和文誌『国際漁業研究』に投稿することができます。報告論文の査読手続きは一般投稿論文と同じで（ただし、審査は原則として2回までとする）、掲載料は1万円となっています。報告予定者におかれましては、「報告論文」への奮っての投稿をお願いします。

2023年度の報告論文投稿受付期間は大会終了後から2023年9月15日（金）までです。投稿規定に準拠した論文原稿と投稿票を、編集委員長（若松宏樹：hwakamatsu@affrc.go.jp）、編集幹事（神山龍太郎：kamiyama_ryutaro30@fra.go.jp）、大会特集担当（浪川珠乃：namikawa@jific.or.jp）の3名を宛先としてご提出ください。個別報告時と内容が大きく異なる原稿や、分量が規定を大幅に上回る原稿は受付できません。審査のスケジュールは以下の予定となっております。

- ・報告論文〆切 9月15日
- ・第1回審査結果の返却予定 11月中旬
- ・第2回審査結果の返却予定
 - ・第1回の判定が「B：修正が必要（編集委員による確認）」の場合、1月下旬
 - ・第1回の判定が「C：大幅な修正が必要（再査読）」の場合、2月中旬

※上記のスケジュールは査読や修正が期限通りに実施された場合の見込みであり、この期限通りに審査が進むことを保証するものではありません。

※報告要旨集は配布しませんので、要旨等は、各自で事前にホームページ（<http://www.jifrs.info/>）からダウンロードをお願いします。（8月中旬に掲載します）

詳細なスケジュールや会場情報は、随時ホームページに掲載していきます。

3. 2023年度 JIFRS 大会シンポジウムのテーマ

《漁村地域活性化と海業の推進（仮）》

趣旨：古くから伝統産業である漁業や水産業によって支えられ栄えてきた漁村が、1990年代に入ってから漁業の縮小再編や水産業の空洞化などにより、崩壊の危機に直面するところが散見されるようになった。漁村地域を如何に振興するかが問われて久しく、近年海業はいわばその打開策として再び脚光を浴びるようになり、2022年3月に更新された最新の第5期水産基本計画において、海業の振興が主要政策の一つとして位置づけられた。また、海業の振興に向けて2023年3月10日に漁港の用途拡大や漁港施設等活用事業制度を盛り込んだ漁港漁場整備法の改正や、それに伴う水産業協同組合法、遊漁船業の適正化に関する法律の一部改正案が閣議決定され、今後の国会審議に付された。本シンポジウムでは、こうした海業政策の導入と漁港制度改革の動きを踏まえながら、漁村地域経済活性化の原点に立ち返って、改めて海業振興の意義、漁港制度改革や海業のあり方をめぐって検討することを目的とする。

13:00 開会

総合司会：山下東子（大東文化大学）、川辺みどり（東京海洋大学）

第Ⅰ部 海業の推進をめぐって

司会：川辺みどり（東京海洋大学）

解題：漁村地域活性化と海業の推進（仮）—海業振興の意義 婁小波（東京海洋大学）

報告1：海業の振興をめぐる政策的展開 浪川珠乃（漁村総研）

報告2：オーストラリアの漁村経済と海業 Kate Barclay（シドニー工科大学）

報告3：海業の振興と新たなビジネスモデルの構築—(株)ゲイトを事例に—（仮）

神山龍太郎（水産研究・教育機構）・飛田努（福岡大学）・松井隆宏（東京海洋大学）

報告4：漁村地域経済と海業への取り組み—静岡県を事例として 李銀姫（東海大学）

第Ⅱ部 地域での実践

司会：関いずみ（東海大学）

報告5：由比港漁協における海業の取り組み 宮原淳一組合長

報告6：清水漁協用宗支所における海業の取り組み 斉藤政和元運営委員長

報告7：伊豆漁協稲取支所における海業への取り組み 鈴木精運営委員長

報告8：いとう漁協における海業への取り組み 高田充朗組合長

第Ⅲ部 総合討論

司 会：山下東子・川辺みどり

コメンテーター（未定）：宮田勉（JIRCAS）、五月女圭一（株式会社ゲイト）、中原尚知
（東京海洋大学）

質疑応答

17:45 閉会

4. 2024年度JIFRS大会シンポジウム企画募集

宮田勉（国際漁業学会大会運営委員長・JIRCAS）

2024年度JIFRS大会のシンポジウム企画を募集します。応募される方は下記の要領にて仮題と概要をお知らせくださいますようお願い致します。皆様からの奮ってのご応募をお待ちしております。

応募内容：仮題および概要（800～1,200字程度）

応募締切：2023年8月10日

連絡先：国際漁業学会事務局（jifrs.kaiyodai@gmail.com）

応募内容をもとに立案した企画は、次号の短信に掲載する予定です。

5. 学会賞（国内賞）候補者の推薦依頼

川辺みどり（国際漁業学会 学会賞選考委員長・東京海洋大学）

2023年度の学会賞候補者の選考を開始します。自薦・他薦を受け付けますので、積極的に推薦してください。推薦の際、歴代受賞者リストも参照ください。

国際漁業学会 学会賞の選考要領は下記の通りです。

授賞の対象は、以下の3種類です。

<功績賞>学会の活動に対して大きな貢献のあった会員。

<学会賞>書籍、もしくは一連のまとまった研究を通して、学術の発展に大きく寄与した会員（個人）。書籍については、2021年7月1日以降の業績が対象です。

<奨励賞>原則として40歳代以下で、本学会誌に掲載された論文、もしくはそれを含む一連の研究を通して、学術の発展に寄与した会員（個人）。本学会誌第20以降巻の掲載論文が対象となります。

募集期間：2023年8月10日締め切り

推薦方法：推薦する対象者、賞のジャンルとその理由（形式自由）を、JIFRS 会長（婁小波 lou(at)kaiyodai.ac.jp）宛てに、Eメールにて送付してください。

選考方法：会員からの推薦をもとに、会長が学会賞選考委員会に諮って候補者を決め、理事会の承認を得て決定します。

賞の授与：2023 年度国際漁業学会大会の際におこなう総会にて授与します。受賞候補者には事前にお知らせしますので、ぜひ大会へのご出席をお願いします。

◆学会賞（国内賞）の歴代受賞者リスト (2023 年 7 月現在)

| 氏 名 | 受賞時所属・職名 | 受賞年月日 | 備 考 |
|----------------|--|----------------|-----|
| 松田 恵明 | 鹿児島大学 名誉教授 | 2011 年 8 月 4 日 | 功績賞 |
| 真道 重明 | - | 2012 年 8 月 5 日 | 功績賞 |
| 八木 信行 | 東京大学 准教授 | 2012 年 8 月 5 日 | 学会賞 |
| 中島 亨 | 東京大学 特任助教 | 2012 年 8 月 5 日 | 奨励賞 |
| 松井 隆宏 原田 幸子 | 三重大学 准教授 株式会社地域資源経済研究所 研究員 | 2012 年 8 月 5 日 | 奨励賞 |
| 榎 彰徳 | NPO 法人 消費者支援機構関西 理事長 | 2013 年 8 月 4 日 | 功績賞 |
| 有路 昌彦 | 近畿大学 准教授 | 2013 年 8 月 4 日 | 学会賞 |
| 猪又 秀夫 | 水産庁 | 2015 年 8 月 9 日 | 学会賞 |
| 小野 征一郎 | 東京水産大学 名誉教授 | 2016 年 8 月 7 日 | 功績賞 |
| 黒倉 寿 | 東京大学 名誉教授 | 2017 年 8 月 6 日 | 功績賞 |
| 阪井 裕太郎 | Arizona State University Post-Doctoral Research Associate | 2018 年 8 月 7 日 | 奨励賞 |

| | | | |
|--------|----------------------------|------------|-----|
| 森下 丈二 | 東京海洋大学 教授 | 2020年8月29日 | 学会賞 |
| 多田 稔 | 近畿大学 教授 | 2022年8月28日 | 功績賞 |
| 大石 太郎 | 東京海洋大学 准教授 | 2022年8月28日 | 奨励賞 |
| 山田 二久次 | 三重大学 准教授 | 2022年8月28日 | 奨励賞 |
| 神山 龍太郎 | 水産研究・教育機構 水産資源研究所 主任研究員 | 2022年8月28日 | 奨励賞 |

7. 事務局だより

事務局

1) 今後の大会シンポジウムテーマ等について

今後の大会シンポジウムテーマや個別報告の「特別セッション」などにつきまして、企画提案を募っておりますので、ご提案や企画などがございましたら、事務局までご一報いただけますと幸いです。

2) 学会のホームページについて

新ホームページへの移行期間におきましては、皆様にご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。リニューアルしたホームページが稼働しておりますので、ぜひご活用ください。URLは以前と同じです。

3) 会費や大会参加費の納入について

2020年より会費等の納入先が変更になっています。本短信の冒頭に記した情報をご確認のうえ納入をいただきますよう、よろしくお願いいたします。